

交通事故死傷者低減のための 安全システムの研究

豊田合成株式会社 セーフティシステム事業部
大坂 邦明

日本の交通事故による死亡者数は03年では年間8000人弱まで下がってきた。これには色々な安全・交通法規の導入や啓蒙活動、インフラ整備、車両への安全技術の導入・普及、さらには救急医療の拡充など多くの関係者の大変な努力が効果を発揮してきたものと思われる。しかしながら全世界で見れば03年で約50万人が死亡したと言われている。実は増えつつけているのはこれから車社会がさらに発展するであろう地域ということにもっと注目する必要がある。たとえば中国では03年で何と10万人以上の人が死亡していると報告されている。

加えて負傷者、中でも重度の障害者の数も忘れてはならない。日本では年間約2000人もいるが、しかもその数は減ってはならずむしろ増える傾向にあるということにも注目すべきである。

これから社会が発展して豊かになり車が増えていくにつれ、ますますこれらの数字は大きくなるかもしれない。自動車の生産を通じて社会の発展に貢献したいと考えている我々業界人にとって環境問題同様、安全への取り組みももっと強化しなければならないのは自明の理である。

しかしながらそこにはまだ大きな壁がある。それは事故の実態、人間がどう負傷するのか、子供や高齢者はどこまでなら耐えられるのか、今の安全技術で何がまだ足りないのか、どこに改善の余地があるのかなど、実はまだ良く分かっていないということである。その壁を少しずつでも崩していかなければ安全システムの改良・開発の取り組みは難しい。欧米は勿論、日本でもそのための取り組みはあるが、残念ながら日本では広く業界関係者が使えるような仕組みにはまだ至っていない。

それに関する私見・要望を述べてみたい。

運転業務とメンタルヘルス ～向精神薬（抗うつ薬、抗不安薬、睡眠導入剤）が与える運転技能への影響を中心に～

名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学分野
尾崎 紀夫

近年、メンタルヘルスの問題は各職場における重要課題となっている。とりわけ、うつ病を中心とした精神障害に罹患し休務した勤労者をいかにして職場復帰してもらえば良いのか、各職場で腐心されている点である。一方、運転が業務上必要な職種は多いが、精神疾患そのものに起因する睡眠の問題がもたらす眠気や治療上服用している薬剤（向精神薬）が、運転技能に及ぼす影響は、職場復帰にあたり大きな問題となっている。

職場復帰の第一の目安は、多くの精神障害患者で急性期に乱れていた睡眠覚醒リズムが安定化していることが挙げられる。この点に関して、本シンポジウムでは、どのような睡眠覚醒リズムの乱れが精神障害で現れ、臨床的にいかに対応しているかを述べた上で、我々がどの様にして職場復帰前に睡眠覚醒リズムを検討している具体的方法を提示する。

また、職場復帰後の精神障害の再発防止対策を鑑みると、向精神薬を服用しつつ就労することになる。特にうつ病の再発防止においては、初発の場合でも、寛解後最低6ヶ月の維持治療として抗うつ薬を服用することがエビデンスとして明確化されている。さらに、再発症例に関しては、初発症例よりも再発危険率が高まることから、維持投与の期間もより長く、寛解後数年単位で服用すべきであるとの見解もある。

一方、ほとんどの向精神薬は、添付文書上「眠気、注意力、集中力、反射運動能力等の低下を起こすことがあるので、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること」との注意書きがある。しかしながら、うつ病によって損なわれた達成感ないし自信（自分自身や周囲を否定的にとらえてしまう見方（認知）による）を回復する上で不必要に強い就業制限を長期にかけ続けることは治療的に望ましいことではない。

本邦の精神科臨床において使用可能な向精神薬の種類は抗うつ薬に限らず増えており、眠気、認知、作業能力、筋緊張などに対する副作用を減らした向精神薬も多い。加えて、各向精神薬の眠気、認知、作業能力、筋緊張に与えるデータも報告されており、その点を考慮した使い分けがある程度可能な状況になりつつある。本シンポジウムではこの様な現状を踏まえて、向精神薬服用中の運転業務にあたって留意すべき点を述べ、対応策を考えてみたい。

参考文献

- ・「毎日ライフ：2004年3月号：働きざかりに忍び寄るうつ病」：尾崎紀夫ら著、毎日新聞社出版局 2004年2月1日発売
- ・「ぐっすり眠って、あしたも元気」：尾崎紀夫、トヨタ自動車健康保険組合「PoPo 2月号」<http://www.toyotakenpo.jp/popo/popo.shtml>
- ・尾崎紀夫、鈴木竜世、野畑綾子：うつ病の発症・経過において環境の果たす役割―職場環境からうつ病対策を考える―産業精神保健 11 (4)：360-367, 2003
- ・尾崎紀夫、鈴木竜世、野畑綾子：職域におけるうつ病の早期発見と社会復帰を目指したサポート。産業精神保健 10 (4)：324-328, 2002